

新冠百話

第八十八話 「判官館城跡（伝説）」

（要約文）

日高線新冠駅跡（現・出会いと憩いのセンター）より西に約三百メートル行くと新冠川がある。その西方、海にそそり立つ海拔五十メートル程の岩壁が、幾多の物語を秘めた判官館である。伝説によれば、かつてその崖の上に、兄源頼朝から逃れたどりに着いた源九郎判官義経の館が建てられたという。

ここは、前面には青い太平洋が広がり、後ろには雄大な日高山脈の山々が連なっている。海側は断崖に囲まれ、視線を内陸側に移すと、新冠川の清流を挟んで高江の平原を見下ろすことができる。外敵からの攻撃を防ぎやすく、景色も美しい場所である。また日高地方は気候、風土ともに良く、冬季の雪が少ないことも、この地に館を建てた理由として伝わっている。

『吾妻鏡』によると、義経は文治五年（一一八九年）閏四月三十日に奥州平泉の衣川館で、源頼朝の追討から逃れられ

なくなり、自刃したとされている。

しかし世間は英雄義経をこれで終焉させることを惜しみ、不死や北渡り説が語られ、信じられるようになった。牛若丸の冒険を主題とした古浄瑠璃「御曹子島渡り」なども伝説に影響を与えたと思われる。

義経北渡りの物語はやがて蝦夷地にまで廻り伝って、遂には蝦夷地に住む人々から類似の伝説が生じるようになった。アイヌの祖神オキクルミの物語と混同されている例もある。蝦夷地を訪れた和人は、現地の人々の口から様々な義経伝説を語り聞かされたという。

このような、義経にまつわる伝説や地名は、全道各地に残されている。



「判官館（平成20年）」
海からの護りが固く、周囲を見渡すことのできる地形。ロマンあふれる景色だ。

戸籍の窓

3月6日～4月5日までの届出分（敬称略）

●おくやみ申し上げます

壁岸 則子 74歳 東川
菊地 雅子 88歳 本町
早川 恵子 88歳 太陽
瀧瀬あや子 77歳 東町

☆広報に掲載してほしい方は届出のとき、町民生活課町民生活グループ住民係へお申し出ください。

●お問い合わせ先

町民生活課町民生活グループ住民係
☎0146・47・2112

『交通安全』をみんなで実施

- スピードダウンと全席シートベルト着用の徹底
- 乗車用ヘルメットの着用などの自転車等の安全利用
- 飲酒運転の根絶
- 「ハンドサインでストップ運動」で事故防止 静内警察署

火災・救急出動状況（ ）かっこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数	災害出動件数
3月	0件（0件）	24件（24件）	3件（0件）
8年1～3月	0件（1件）	86件（82件）	5件（2件）

区分	発生件数	死者	傷者
3月	0件（0件）	0人（0人）	0人（0人）
8年1～3月	0件（1件）	0人（0人）	0人（1人）

人のうごき

（令和8年3月末現在）

人口 4,908人（前月比 △20人）
男 2,501人（前月比 +4人）
女 2,407人（前月比 △24人）
世帯 2,822世帯（前月比 +23世帯）

町公式ホームページ



町公式フェイスブック

